

平成28年度 大学病院情報マネジメント部門連絡会議

抄録集

スタッフ・患者・地域 ともに考えるこれからの医療情報教育
-医療ICTの活用と個人情報保護及びセキュリティ対策を考える-

UHIM
2017

02
個人情報保護

01
医療情報教育

03
情報セキュリティ

会期 平成29年1月25日(水)～27日(金)

会場 琵琶湖ホテル (滋賀県大津市)

大会長 永田 啓 (滋賀医科大学 医学部附属病院 医療情報部長)

後援 公益社団法人びわこビジターズビューロー

ご挨拶

平成 28 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議
大会長 永田 啓
(滋賀医科大学医学部附属病院 医療情報部長)

謹啓

新春の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成 28 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議の開催にあたり、ご参加の皆様、ご発表の皆様、ご協賛いただいた皆様を始め、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

本会議は、国立大学病院のみならず、公立・私立大学病院等の情報マネジメントに関わるあらゆる職種の方々が一堂に会し、病院における情報の扱い方・医療のデジタル化・医療の質・医療の安全性・医療経営・業務の効率化等について議論を交わすことができる、貴重な機会として長年にわたり開催され、情報マネジメントシステムの管理・運営に多大な貢献をしてきたものです。あわせて、病院の教職員のみならず、関係する情報関連企業の方々にとっても有益な機会となってきたものです。

平成 28 年度は、「スタッフ・患者・地域 ともに考えるこれからの医療情報教育 ～医療 ICT の活用と個人情報保護及びセキュリティ対策を考える～」をテーマとして、本会議を企画いたしました。医療情報が紙からデジタルに移行し、平成 28 年 4 月からは医療機関間をはじめ、病院薬局間等での情報のやりとりもデジタル化が認められ、医療情報が地域・社会を巻き込んでやりとりされる時代に突入しました。こうした中で、今までは病院内で教育・周知を行ってきた医療情報の取扱いについて、医療関係者だけではなく、患者さんをはじめ地域のあらゆる方々に理解していただくことが非常に重要になってくると考えています。

高齢化社会において、病病・病診・在宅までの連携があたりまえになる我が国において、大学病院の位置づけが注目されてきています。地域の医療情報の取扱いにおいて、大学病院は、ICT の活用方法の指導・アドバイスから個人情報保護の教育・医療情報流通のセキュリティ対策と啓発など、率先して地域に貢献することが社会から求められています。

BCP をはじめとする医療情報の保存と保証、医療者や患者さんなどデジタル環境における個人認証、蓄積されてゆく医療情報の二次活用など、本会議で取り上げてきたテーマはまさに今求められている ICT 活用方法の最たるものですし、個人情報保護やセキュリティ対策をいかに啓発していくのかは、地域連携や在宅医療・看護・介護を支えるために非常に重要です。

このような状況にあって、本会議では病院情報システム、薬剤部門、検査部門、放射線部門、看護部門、事務部門、診療情報部門、臨床研究部門及び部長会セッションをはじめ、UMIN 関係の各種委員会を開催いたします。地域連携と医療情報の取扱いの教育と啓発・情報セキュリティに関するテーマで情報提供のセッションも企画しました。

今回の会場である琵琶湖ホテルは、京都駅から JR で 10 分の大津駅から 1km の琵琶湖の畔にあり、遊覧船の港も目の前にあって、アクセスはとても便利な場所で、目の前に広がる雄大な琵琶湖・比叡山・比良山系のパノラマは絶景です。本会議をご支援いただくとともに、ぜひ琵琶湖と滋賀の文化をご堪能いただければ幸甚に存じます。

ご参加される皆様にとって有意義な情報交換の場となるよう全力で進めて参りますので、趣旨にご理解いただき、格別のご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様の益々のご発展をお祈り申し上げます。

謹白

平成 29 年 1 月吉日

日程表

1月25日 (水)

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
大津港 ピアンカ船内								幹事会 15:00-16:00	部長会 16:00-18:00			部長懇親会 18:30-20:30		

1月26日 (木)

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
A会場 瑠璃 central (3階)		開 会 式	A-1 病院情報システム 9:00-10:30	A-2 看護 10:35-12:05	ランチョンセミナー1 (関)フライン デックス 12:20-13:20		A-3 病院マネジメント(事務) 13:35-15:35					全体懇親会 18:00-20:00		
B会場 瑠璃 west (3階)			B-1 診療情報管理 9:00-10:30	B-2 部長会 10:35-12:05	ランチョンセミナー2 富士通(株) 12:20-13:20	B-3 情報提供B 13:35-15:05	B-4 地域連携 15:10-16:40							
C会場 ローズ (2階)			C-1 情報提供A 9:00-10:30	C-2 歯科 10:35-12:05	ランチョンセミナー3 レボハット(株) メディカルデータ ビジネス(株) 12:20-13:20	C-3 臨床研究・治療 13:35-15:05	C-4 薬剤 15:10-16:40	スイーツセミナー 富士フィルム メディカル(株) 16:50-17:50						
D会場 オレンジ・ブラウン (3階)			UMIN 小委員会 事務 9:00-10:00	UMIN 小委員会 薬剤 10:05-11:05	診療情報 管理士 連絡会 11:10-12:10		D-1 検査 13:35-15:05	D-2 放射線・ 医用画像管理 15:10-16:40	UMIN 協議会 幹事会 16:50-17:50					
P会場 瑠璃 east (3階)			ポスター掲示 立会：11:00-18:00 発表者ごとに時間設定(1時間)											
企業展示会場 瑠璃 ホワイト (3階)			企業展示											
展示ルーム ホワイト (3階)			展示ルーム GEヘルスケア・ジャパン(株)											
展示ルーム グリーン (3階)			展示ルーム 富士通(株)											

1月27日 (金)

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
A会場 瑠璃 west-central (3階)			基調講演 9:00-10:00	総会・閉会式 10:05-11:30	UMIN 協議会 総会 11:30- 12:00									
ふじ (4階)					運営委員会 12:00-13:00									
P会場 瑠璃 east (3階)			ポスター掲示											
企業展示会場 瑠璃 ホワイト (3階)			企業展示											
展示ルーム ホワイト (3階)			展示ルーム GEヘルスケア・ジャパン(株)											
展示ルーム グリーン (3階)			展示ルーム 富士通(株)											

プログラム

開会式

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）8：45～9：00

会 場：A 会場 瑠璃 central（3 階）

基調講演

大学病院を取り巻く諸課題

日 時：平成 29 年 1 月 27 日（金）9：00～10：00

会 場：A 会場 瑠璃 west・central（3 階）

座 長：辻谷重宏（滋賀医科大学医学部附属病院）

演 者：佐藤人海（文部科学省 高等教育局 医学教育課 大学病院支援室長）

セッション

1 病院マネジメント（事務）

今、求められる！！ データを活用した事務職員主導による企画力・発信力、
そして、実現に向けた具体的な行動力

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）13：35～15：35

会 場：A 会場 瑠璃 central（3 階）

座 長：辻谷重宏（滋賀医科大学医学部附属病院）

国立大学法人の自己収入の中で、附属病院の病院収入は重要な位置を占めており、附属病院の経営状況が、国立大学法人の運営に大きな影響を与えている。診療報酬のマイナス改定や損税問題など、医療を取り巻く外部環境は大きく変化する中で、各大学病院での経営改善に向けた努力が必要不可欠なものとなっており、今、まさに事務職員の企画力・発信力・実現にむけた具体的な行動力等を合わせた組織の力と個人の力を最大限に発揮することが求められている。

そこで、今般の事務セッションにおいては、「データを活用した事務職員主導の経営改善と方法」に的を絞り、各大学病院の取り組み事例をご報告いただき、大学病院が目指すべき方向を考える機会とする。

1. HOMAS2 を活用した診療科ヒアリング資料

齊藤憲市（徳島大学病院 経営企画課 経営企画係）

2. HOMAS2 利用者別原価計算の活用に関する現状と課題について

大内聖和（北海道大学病院 経営企画課 分析企画係）

3. HOMAS2 を用いた評価帳票の作成と診療科分析

妹尾信孝（島根大学医学部 会計課 経営支援担当）

4. HOMAS2 患者別原価計算を活用した DPC 分析について

守田はるな（熊本大学医学部附属病院 事務部 経営戦略課 経営戦略担当）

5. 長崎大学病院におけるチーム経営の取組 ～みんなでやるばい経営改善～
窄 由香利（長崎大学病院 事務部病院企画課）
6. 院内主要会議の平均時間短縮の取組 ～労務環境改善による病院の経営改善 第一弾～
國吉徹也（琉球大学医学部附属病院 医学部経営企画課）

2 病院情報システム

地域医療連携の標準化に向けて

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）9：00～10：30

会 場：A 会場 瑠璃 central（3 階）

座 長：杉本喜久（滋賀医科大学医学部附属病院 医療情報部）

芦原貴司（滋賀医科大学医学部附属病院 循環器内科）

各大学病院において電子カルテシステムが複数回リプレースされ、各々の電子カルテシステム自体はそれなりに十分な機能を備えてきているように思われる。しかしながら、地域医療連携の機能に目を向けると、地域ごとに連携のための独自のシステムを構築して病院間の連携を図っている状態である。医療資源の有効利用という観点から考えると、地域ごとに別々にシステムを設計構築して運用するというのは資金が分散してしまっていて、コストパフォーマンスを低下させる。将来的に電子カルテも全て共通化してしまえないかという構想も病院長会議から上がっているが、それは遠い将来の問題として、まずは地域医療連携を標準化して普及拡大を図れないかと考え、本セッションを企画した。

本セッションでは各大学の具体的な取り組みをご発表いただくとともに、一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会から、地域医療連携の標準化に向けてベンダーを束ねる立場としてどのように考えているのかをご紹介いただく。

1. 大阪大学医学部附属病院地域連携システムにおける選択的文書公開の仕組み
三原直樹（大阪大学医学部附属病院 医療情報部）
2. 信州メディカルネットによる地域医療連携の取組み
浜野英明（信州大学医学部附属病院 医療情報部）
3. IBM 系病院情報システムにおける地域連携
山下芳範（福井大学医学部附属病院 医療情報部）
4. 地域医療連携の標準化に向けた JAHIS の取組み
森田嘉昭（一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会）

3 部長会

HIS 更新の問題点を考える

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）10：35～12：05

会 場：B 会場 瑠璃 west（3 階）

座 長：本多正幸（長崎大学 医歯薬学総合研究科 医療情報学）

永田 啓（滋賀医科大学医学部附属病院 医療情報部）

オーダリングシステムから電子カルテへの載せ替えステージは終了し、大部分の大学附属病院においては、電子カルテから電子カルテへの HIS 更新のステージに入っています。

HIS 更新は、現在社会のニーズにより、病院を止めずに行うのが通例で、同一メーカーによる更新から、メーカー変更を行う更新、またサブシステムの多くを入れ替えるか入れ替えないか、などさまざまな問題を抱えながら行われます。

こうした中で、どのように情報連携を図って行くのか、現行法や厚労省通達などの縛りの中でどのようにデータ継承を行うのか、といった現実的な問題が出てきます。

また、大学の厳しい経営状態の中で、費用の削減を求められ、システムバランスや病院としてのパフォーマンス維持など、あらゆる要素を考慮しながらの更新を行わなければならない、しかも自分の研究費でもないのに費用を使いすぎると非難されるなど、矢面に立って苦労されている医療情報関連部門の現状も含めてシステム更新に関して紹介していただきたいと思います。

併せて、費用削減・費用の妥当性の検証のために、各大学がどのような取り組みを行っているかに関しても、ご協力いただいたアンケートに基づきご紹介できればと思っております。

1. PACS 更新におけるデータ継承をどう担保するのか？

岡本和也（京都大学医学部附属病院 医療情報企画部）

2. 群馬大学の病院情報システム更新における情報連携とデータ継承について

鈴木亮二（群馬大学医学部附属病院 システム統合センター）

3. 病院情報システム更新における検討課題

永田 啓（滋賀医科大学医学部附属病院 医療情報部）

4 診療情報管理

診療情報の適切な管理と積極的な活用を行うために

～診療情報管理スタッフのキャリアプランと教育への取り組み～

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）9：00～10：30

会 場：B 会場 瑠璃 west（3 階）

オーガナイザー：野村俊子（大分大学 医学・病院事務部 医事課 診療情報管理支援室）

座 長：野崎和彦（滋賀医科大学医学部附属病院 病歴部）

西山 謙（九州大学病院 戦略企画課）

平成 28 年 6 月に医療法施行規則の一部が改正され、特定機能病院の承認要件として診療録等の責任者を定めること、説明に関する責任者を配置することが定められました。診療録等の管理を担う診療情報管理部門においては、その意義を十分に理解し診療情報を精度をもって管理することがより求められてきます。

この数年、各施設には診療情報管理士が専門職として配置され、経験豊富な方から新人まで、多様な業務に従事する人員が増加してきています。

そこで、診療情報管理部門や診療情報管理士が病院にとって有益となるため、また診療情報管理士がキャリアアップしてくためには、どのような将来像を描くことが必要なのか、先進的な取り組みをされている病院や診療情報管理部門に関わる方より事例紹介をいただきながら、現状と課題、キャリアプランについて考えていきたいと思ひます。

1. 診療情報管理への期待 ～期待に応えるには～

吉野孝博（福井大学 病院部 医療サービス課）

2. 診療情報管理士若年層キャリアラダーの開発 ～診療情報管理部門の立場から～

初山 貴（北海道大学病院 診療録管理室）

3. 大学病院の診療情報管理士教育に思ひ ～Ns/HIM 資格保持者の立場から～

船田千秋（名古屋大学医学部附属病院 メディカル IT センター）

4. 診療情報管理士の業務展開 ～医療情報部の業務の視点から～

村上玄樹（産業医科大学病院 医療情報部）

5 看護

的確な看護情報を提供するために

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）10：35～12：05

会 場：A 会場 瑠璃 central（3 階）

オーガナイザー兼座長：西村路子（滋賀医科大学医学部附属病院 看護部）

原口真紀子（旭川医科大学病院 看護部）

地域包括ケアシステムが推進される中、医療機関相互の連携や医療、介護の連携によるネットワークの強化が求められています。わたしたち看護職が医療・介護をつなぐ立場として、その役割を果たしていくためには、どの場面、どの状況においても隙間のないケアを実践していくことが必要です。

本セッションでは、地域の中核を担う大学病院の戦略的な取り組みをご紹介していただくとともに、地域連携における他職種との情報共有について考えていきたいと思ひます。そして、的確な看護情報を提供するためには、『今、何を目指し、何をすべきか』ということを示していく必要があります。このセッションにて、活発な意見交換を行い、課題を明確にしていきたいと考えております。

1. よりよいケアを提供するための情報共有のあり方 ～地域連携システムを活用して～

瀧田千恵美（鳥取大学医学部附属病院 入退院センター）

2. 入退院センターと地域医療連携室看護師の役割

～外来・病棟・地域をつなぐための情報共有～

金田豊子（旭川医科大学病院 看護部）

3. 在宅看護力の向上への取り組み ～看護学生に対する卒前教育を通して～

白石知子（滋賀医科大学医学部附属病院 看護臨床教育センター）

4. 的確な看護情報を提供するために ～訪問看護師の立場からの提言～

村木泰子（一般社団法人 日本看護業務研究会（JASNi））

6 歯科

電子診療録時代に歯科の診療録はどうあるべきか

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）10：35～12：05

会 場：C 会場 ローズ（2 階）

オーガナイザー兼座長：森本徳明（矯正歯科 森本）

平成 27 年 10 月現在、歯科診療所 68,737 で病院の診療科は標榜科別に歯科 1,112、矯正歯科 139、小児歯科 148、歯科口腔外科 923（重複あり）となっており、歯科診療所の比率が 97% 近くである。

よって、歯科の電算システムは、歯科診療所向けのシステムが中心となり、開発が進められてきた。そのため、診療報酬請求に関する機能や、診療録を作成する機能については、各ベンダーが個々のユーザーの要望に応える形で、非常に進歩しているが、電子診療録として新規開発するには予算規模も少なく、レセコンもしくはカルテ作成コンピュータとなっており、電子診療録の開発・導入になかなか移行していないのが現状である。

しかし、大学病院をはじめとする病院の歯科においては、病院全体の診療録（医療記録）の電子化に伴い、歯科システムも電子診療録として利用できることが求められ、それにより開発され導入されるようになってきている。

ところが、歯科の大学病院で最初のオーダーエントリーシステムが開発されて 20 数年が経過し、電子診療録になりつつあるが、診療録ということで、紙の時代のルールとのはざまで、電子診療録だからできることと、求められるものが、現状と十分マッチングされず、今後の開発方向を見定める時期ではないかと考える。

このセッションでは、まず、座長より簡単に HP 上で公開されている各厚生局の指摘事項をまとめたものを解説し、このセッションの流れを伝え、続いて、平成 28 年度に特定共同指導を受けられた岡山大学および大阪大学の先生より、電子診療録として指導を受けられたご報告をいただく。

上記の発表をもとに、電子診療録としての運用の実例、医科との連携、紹介状機能など病診連携の可能性を含め、また、特定共同指導で歯科医療情報システムに関する指導点から歯科の電子カルテおよび電子化の求める方向というものを参加者の皆様と議論する予定です。

1. 電子診療録時代に歯科の診療録はどうあるべきか ～指摘事項よりの検討～

玉川裕夫（大阪大学歯学部附属病院 医療情報室）

2. 適正な保険診療と電子カルテ ～歯科における医療情報システムの利用について～

柳 文修（岡山大学大学院 歯科放射線・口腔診断科）

7 薬剤

医薬品の適正使用に向けた ICT の活用

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）15：10～16：40

会 場：C 会場 ローズ（2 階）

オーガナイザー兼座長：寺田智祐（滋賀医科大学医学部附属病院 薬剤部）

田崎嘉一（旭川医科大学病院 薬剤部）

平成 28 年 6 月の医療法施行規則の改正に伴い、医薬品の安全管理や適正使用の実施が強く求められるようになった。医薬品や処方に関する必要な情報を適切かつ正確に把握し、医療の質の向上をはかる手段として、医療情報システムが担う役割は大きい。

このセッションでは、様々な施設において、医薬品の適正使用に向けた ICT の活用事例を紹介頂く。各施設の実施状況の情報共有と医療情報システムの課題や今後システムに期待される仕様などに関して議論することが、このセッションの目的である。

1. 禁忌処方への対応

深津祥央（京都大学医学部附属病院 薬剤部）

2. 神戸大学医学部附属病院におけるポリファーマシーへの取り組み

宇田篤史（神戸大学医学部附属病院 薬剤部）

3. 周術期患者の術前薬剤管理 ～電子カルテを活用した簡便な情報共有システムの構築～

奥貫裕美（滋賀医科大学医学部附属病院 薬剤部）

4. QR コードによる院外処方箋への臨床検査値表示システムの構築

安達知輝（旭川医科大学病院 薬剤部）

8 放射線・医用画像管理

診療放射線技師の医療情報管理とリテラシーを再考する

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）15：10～16：40

会 場：D 会場 オレンジ・ブラウン（3 階）

オーガナイザー兼座長：吉村雅寛（滋賀医科大学医学部附属病院 放射線部）

座 長：伊藤 彰（滋賀医科大学医学部附属病院 放射線部）

現在、大学病院の診療放射線技師は日々、放射線治療、医用画像を用いた手術支援、画像診断の一助など多くの高度な業務を取り扱っている。

診療放射線技師が取り扱う医用画像の管理は電子カルテよりも早くから運用が開始されており、その後のオーダリングシステムも含め、古くから活用されていた背景があった。上述した理由などにより医用画像のデジタル化の黎明期から診療放射線技師が管理することが日常となった。そのため放射線診療においては診療放射線技師の医療情報業務に関する役割は非常に大きく、また深く関わっているのが現状である。

今回、医療情報管理など実情を把握するために国立大学病院放射線部の医療情報関連業務に

関するアンケート調査を行ったので結果を報告し、現在から将来の診療放射線技師の医療情報の教育から業務、管理体制の在り方などの必要なリテラシーを再考する機会となれば幸いである。併せて近年、欧米で管理が法的に義務付けられつつある医療被ばく管理への関心も本邦においても高まっている。医療被ばく管理は今後重要な医療情報となるであろうと考え国立大学病院の放射線部としては早急に取り組むべき課題であり、その方策などについても考える良い機会になればと期待する。

1. 国立大学病院における医療情報関連業務アンケート調査報告

吉村雅寛（滋賀医科大学医学部附属病院 放射線部）

2. 診療放射線技師の管理すべき医療情報

坂本 博（東北大学病院 放射線部）

3. 放射線部門・診療放射線技師に期待する医療情報リテラシー

島井健一郎（千葉大学医学部附属病院 企画情報部）

4. 患者被ばく線量管理システム構築の実践に向けて ～診療放射線技師の伝えるべきもの～

山本勇一郎（大阪大学大学院 医学系研究科 情報統合医学 医療情報学）

9 検査

外来検査における検査受付システムの実際

～外来患者サービスのための受付システムの工夫および問題点について～

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）13：35～15：05

会 場：D 会場 オレンジ・ブラウン（3 階）

座 長：宮平良満（滋賀医科大学医学部附属病院 検査部）

採血や生理検査を中心とした外来検査において待ち時間を減らし、スムーズに検査を実施することは患者サービスの観点から極めて重要なテーマである。

各病院において、工夫を凝らしながら独自の受付システムを構築しているものと思われるが、本セッションでは、現状を紹介してもらう中で今後の検査受付システムの在り方について課題も含めて討議する場としたい。

1. 当院での検査受付システムの実際 ～採血・採尿・生理検査の自動受付システムについて～

藤澤義久（滋賀医科大学医学部附属病院 検査部）

2. 待ち時間改善に向けた採血室の運用改善の試み

長原三輝雄（金沢大学附属病院 検査部）

3. 採血・採尿自動受付システムの導入効果および運用方法

増田健太（京都大学医学部附属病院 検査部）

4. 採血用カルテ構築を目指した採血業務支援システム

前田育宏（大阪大学医学部附属病院 臨床検査部）

10 地域連携

地域包括ケア時代における大学病院の役割

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）15：10～16：40

会 場：B 会場 瑠璃 west（3 階）

オーガナイザー兼座長：小林利彦（浜松医科大学医学部附属病院 医療福祉支援センター）

座 長：前川 聡（滋賀医科大学附属病院 患者支援センター）

団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年に向けて、「地域医療構想」の策定および実践が求められている。大学病院の多くは、自施設が担う「高度急性期機能」と関連づけた病床機能分化を地域に求めがちだが、今後地域で進められるべき「地域包括ケアシステム」の構築にも無関心であってはいけないと考える。ただし、地域包括ケア時代における大学病院の役割ははまだ明確ではない。

今回、当該領域に関して、大学病院の中では極めて先駆的な取り組みを行っている方々から、今後大学病院がどのような役割を地域で担っていくべきかを発表していただき、将来に向けて一定の方向性を示したいと考える。現状ある「地域連携室」がそのまま良いのか、退院調整等を行う看護師や MSW 等に大きな意識改革が必要なのか、行政や医師会等との関係は、そして、大学病院の本来のミッションである「医療関連人材の育成」をこれからどのように行っていくべきか、活発かつ示唆的な議論を望みたい。

1. 医療関連専門多職種のキャリアパスを考える

藤田伸輔（千葉大学予防医学センター）

2. 大学病院地域医療連携部門の今後の在り方

川崎浩二（長崎大学病院 総合患者支援部 地域医療連携センター）

3. 大学病院と行政機関との協働について

～地域包括ケア時代における大学と大学病院の役割～

山村 修（福井大学医学部 地域医療推進講座）

11 臨床研究・治験

臨床研究の“支援”及び“管理”における ICT の活用

～「倫理審査および COI」と「研究実施支援」～

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）13：35～15：05

会 場：C 会場 ローズ（2 階）

オーガナイザー：久津見 弘（滋賀医科大学医学部附属病院 臨床研究開発センター）

上田照子（滋賀医科大学医学部附属病院 臨床研究開発センター）

座 長：杉本喜久（滋賀医科大学医学部附属病院 医療情報部）

渡邊達也（北里大学北里研究所病院 研究部）

臨床研究における不適切事案の再発防止と我が国の臨床研究の信頼回復のために、臨床研究の質の確保、被験者の保護および資金提供における透明性確保などの観点から2014年12月に従来の「疫学研究に関する倫理指針」と「臨床研究に関する倫理指針」を統合して「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（統合指針）」が制定され、2015年4月から施行されている。このことに伴い、データ管理を含む各種臨床研究支援、倫理審査委員会の運営、研究実施中の有害事象等の管理、利益相反の管理等の体制整備が各施設で行われている。

しかし、わが国では臨床研究専門職が明らかに不足しており、体制整備がなかなか進んでいないのが現状である。この状況を打開する手段として、ICTの活用は必須であり、且つ、期待も大きい。

本セッションでは、臨床研究の支援や管理においてICTを活用している施設における現状と課題について発表頂き、最後に各演者と聴衆を交えて総合討論を行い、今後の各施設での臨床研究に関する体制整備の一助となることを期待している。

1. IRB 審査書類の電子化について

石岡淳樹（旭川医科大学 総務部 研究支援課）

2. 東京医科歯科大学における臨床研究申請システムの導入とその現状

小池竜司（東京医科歯科大学 医療イノベーション推進センター・
医学部附属病院 臨床試験管理センター）

3. COI（利益相反）マネジメントのシステム化について

～臨床研究・治験におけるCOIマネジメントの課題～

小笠原 敦（滋賀医科大学 バイオメディカル・イノベーション
センター）

4. 臨床研究・治験支援に活用するICTの現状

谷川郁恵（藤田保健衛生大学 研究支援推進センター）

5. 地方AROにおける支援リソースとICTの活用

藤本匡志（高知大学医学部附属病院 次世代医療創造センター）

6. 電子カルテによる臨床試験情報管理の取り組み

長瀬克彦（金沢大学附属病院 先端医療開発センター）

7. 当院における臨床研究支援システムの導入と電子カルテ連携

中山雅晴（東北大学大学院医学系研究科 医学情報学分野）

12 情報提供 A

地域連携に向けたICT教育及び個人情報保護

日 時：平成29年1月26日（木）9：00～10：30

会 場：C会場 ローズ（2階）

オーガナイザー兼座長：永田 啓（滋賀医科大学医学部附属病院 医療情報部）

病診連携やかかりつけ医を中心とした医療介護連携に舵を切った日本の医療においては、今

後地域連携システムはどうしても必要なものとなってきます。

そうした中で、単独の病院を離れ、広く医療情報が流通する中で、情報のセキュリティを担保し、患者さんの個人情報を守るためには、医療・介護にかかわるすべての方々の意識を高めてゆくことが極めて重要です。

今回は医師会を中心として自由度が高く使いやすいネットワークにおいて、セキュリティや個人情報保護を守るために、ユーザーの意識を高めるにはどのような取り組みが行われているのか、また、近々本格運用がはじまる改正個人情報保護法では、こうした地域連携システムはどのような影響を受けるのか、そしてこうした状況の中で、プロフェッショナルとしての医療情報技師はどのような取り組みを行っているかを、紹介していただきたいと思えます。

1. 日本医療情報学会における医療情報技師育成の取り組みについて

池田和之（奈良県立医科大学附属病院 薬剤部）

2. 改正個人情報保護法の概要と医療における課題

中島直樹（九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター）

3. 在宅医療・介護連携システムにおけるユーザーセキュリティの管理等について

岡村晃司（一般社団法人滋賀県医師会 事務局）

13 情報提供 B

地域連携のためのセキュリティ対策

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）13：35～15：05

会 場：B 会場 瑠璃 west（3 階）

オーガナイザー兼座長：永田 啓（滋賀医科大学医学部附属病院 医療情報部）

病診連携やかかりつけ医を中心とした医療介護連携に舵を切った日本の医療においては、今後地域連携システムはどうしても必要なものとなってきます。

そうした中で、セキュリティを担保して診療情報を伝えるシステムは HIS メーカーが中心となった情報提供システムが中心で、どうしても大規模で小回りがききにくいものになっています。このため、医師会を主体として在宅看護や介護にも連携できる小回りがきいてスマホやタブレットも使える地域連携システムが、より利用される傾向にあります。これはユーザーインタフェースを含めて、地域医療情報連携には喜ばしいことなのですが、通常のインターネット回線やスマートフォン・携帯端末などを使うために、セキュリティや個人情報保護の面で、どうしても不安が生じてしまいます。

今回は、こうした社会をささえる ICT インフラの利用において、どのような脅威があり、それをどのように守って行くかについて、警察・ネットワーク業界・クラウド業界など、さまざまな立場で活躍されている方々に、ご紹介していただこうと考えています。

1. サイバー攻撃に対する警察の取り組みとサイバー攻撃の手法について

－サイバー攻撃に対する警察の取り組みについて－

内田達弥（滋賀県警察本部 警備部警備第一課）

2. サイバー攻撃に対する警察の取り組みとサイバー攻撃の手法について

－サイバー攻撃の手法等に関するデモンストレーション－

宮崎真行、深澤道哉（近畿管区警察局 滋賀県情報通信部情報技術解析課）

3. 情報システム基盤の可視化について ～判りやすい運用監視を目指して～

井川知幸（カゴヤ・ジャパン株式会社 営業本部営業企画グループ）

4. 病院 IT 活用アンケートの結果から見る「病院の情報セキュリティ対策」の現状と課題

金井孝三（Sky株式会社 ICTソリューション事業部 販促企画部）

5. 医療分野におけるクラウド活用とセキュリティについて

安藝将典（NTT西日本 ビジネス営業本部 クラウドソリューション部）

共催セミナー

ランチョンセミナー 1

株式会社ファインデックス

病院から地域、患者さんへ 情報共有の進め方

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）12：20～13：20

会 場：A 会場 瑠璃 central（3 階）

座 長：田村 寛（京都大学医学部附属病院 医療情報企画部）

医療の分業、地域包括ケアが叫ばれる昨今、病院と近隣地域の情報交換が非常に重要な時代になってきました。また、診療計画を患者さんと共有しながら、安全で効率的な診療を行うことも、一層求められるようになってきました。IT システムがコミュニケーションに貢献できる期待は大きいものでありますが、まだまだ十分に機能しているとは言えないと思います。今回のランチョンセミナーでは、この分野にフォーカスをあて様々な試みを行っている先生方にご発表頂きます。みなさまの奮ってのご参加をお願い申し上げます。

1. 大都市における地域連携の進め方 医療機関同士の情報共有について

田中勝弥（東京大学医学部附属病院 企画情報運営部）

東大病院では、2016 年 9 月から地域で患者さんを引き受けてくれる医療機関を各診療科医局推薦で提携医療機関として登録することを開始しました。本件に関して重要と考えたところは、どんな医療が提供出来る医療機関なのかを正しく紹介する診療科の医師に情報提供することでありました。つまり患者さんにとって適切な医療を受けることができる医療機関のデータベースを作成し、登録し、運用していくことで医師も紹介しやすい環境を作成し、患者さんにとっ

て安心できる紹介を行えるようにした点であります。本試みが新しい地域包括ケア促進の一助となるのではないかと考えております。本試みについて説明を行います。

2. 患者さんとのコミュニケーション PUSH 型情報提供について

岡本和也（京都大学医学部附属病院 医療情報企画部）

京大病院では、患者さんの診療・検査に関する予約情報を、スマホメール（いわゆる「ガラケー」も含む）を通じてお知らせする仕組みを構築し、2016年11月から運用を開始しました。本仕組みは、枠が限られていて日程変更が困難であったり、日程変更による遅れが好ましくないような、重要な検査・外来手術当日に来院を忘れてしまうような患者さんを減らしたり、絶食漏れなどの検査中止につながりかねない事態を極力減らすことを目的としています。本仕組みの構築にあたっては、病院職員ができるだけ手間をかけずに患者さんのメールアドレスを安全に登録できること、対象者の多くを占める高齢者でも参加可能な仕組みであること、などの克服すべき課題もありました。この取り組みの中で、今後同様な仕組みを導入する際に参考となるポイントについて説明と解説を行います。

ランチョンセミナー 2

富士通株式会社

臨時データを用いた解析手法の検証

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）12：20～13：20

会 場：B 会場 瑠璃 west（3 階）

座 長：朴 勤植（大阪市立大学医学部附属病院 医療情報部）

演 者：勝田江朗（富士通株式会社 ヘルスケアシステム事業本部
イノベーション推進事業部 ヘルスケアイノベーション部）

ランチョンセミナー 3

レッドハット株式会社／メディカル・データ・ビジョン株式会社

情報公開がもたらすイノベーション

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）12：20～13：20

会 場：C 会場 ローズ（2 階）

座 長：駒澤健一郎（レッドハット株式会社 テクニカルセールス本部）

演 者：小野誠志（メディカル・データ・ビジョン株式会社 システム開発部門）

病院の施設外に提供するデータは、診療報酬に関するものだけを見ても、看護必要度に関わる調査票や診療明細書等、様々なデータがあります。情報の公開や提供は、地域医療連携の拡大に伴い、今後益々増加していくと予想されます。

このような状況の中、実際にどのような情報を公開しているのか、把握されていますでしょうか？公開対象となる情報を正しく理解することが情報連携の第一歩であり、その先に発展があると考えています。

今回は情報活用のサービス事例をご紹介しますとともに、オープンな情報公開がもたらす医療現場の未来についてソリューションベンダーの立場からご提案いたします。

スイーツセミナー

富士フィルムメディカル株式会社

多職種協働・保険診療・統合診療支援を担うクリニカルフロー導入の成果

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）16：50～17：50

会 場：C 会場 ローズ（2 階）

演 者：長瀬 清（岐阜大学医学部附属病院 手術部）

チーム医療推進や保険診療の適正化、臨床業務の効率化や標準化、医療安全への取り組みなど、急性期病院が取り組むべき課題が山積する中で、ケアプロセスの可視化や多職種推進を目的とする統合診療支援システムを開発・導入し、この導入過程で医療プロセス改善に伴う成果を検証した。診療進捗情報の可視化に加え、クリニカルフローは文書作成支援やプレゼンテーション機能に強みを備える。病院情報システムと相互連携により情報の一元集約化から診療記録作成まで網羅し、医師・看護師をはじめ全職種の様々なニーズに応え、情報共有だけでなく医療現場の最前線で求められるコミュニケーションにも関わることで得られた成果を検証する。

総会・閉会式

日 時：平成 29 年 1 月 27 日（金）10：05～11：30

会 場：A 会場 瑠璃 west・central（3 階）

各種委員会

医療情報部長会・幹事会

日 時：平成 29 年 1 月 25 日（水）15：00～16：00

会 場：大津港 ビアンカ船内

医療情報部長会

日 時：平成 29 年 1 月 25 日（水）16：00～18：00

会 場：大津港 ビアンカ船内

UMIN 小委員会（事務）

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）9：00～10：00

会 場：D 会場 オレンジ・ブラウン（3 階）

UMIN 小委員会（薬剤）

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）10：05～11：05

会 場：D 会場 オレンジ・ブラウン（3 階）

診療情報管理士連絡会

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）11：10～12：10

会 場：D 会場 オレンジ・ブラウン（3 階）

UMIN 協議会 (幹事会)

日 時：平成 29 年 1 月 26 日 (木) 16:50~17:50

会 場：D 会場 オレンジ・ブラウン (3 階)

UMIN 協議会 (総会)

日 時：平成 29 年 1 月 27 日 (金) 11:30~12:00

会 場：A 会場 瑠璃 west・central (3 階)

運営委員会

日 時：平成 29 年 1 月 27 日 (金) 12:00~13:00

会 場：ふじ (4 階)

ポスター発表

日 時：1月26日（木） 9：00～18：00

1月27日（金） 9：00～11：30

立会い：1月26日（木）11：00～18：00の間で各演題60分

（ポスター発表者は立会い時間中、ポスター前で参加者の質疑にご対応ください。）

会 場：琵琶湖ホテル3階「瑠璃・east」

1 病院マネジメント（事務）

P1-01 千葉大学病院における収支改善への取り組みと現状

今井亮介（千葉大学医学部附属病院 経営企画課）

P1-02 国立大学病院機能指標について

岩本哲哉（東京大学医学部附属病院 国立大学病院データベースセンター）

P1-03 HOMAS2の活用に向けた取り組み

降旗光太郎（東京大学医学部附属病院 経営戦略課）

P1-04 多職種で目指す英語対応能力向上への取り組み

－書籍『東大病院発！医療スタッフのための英会話』の発刊－

岡 陽介（東京大学医学部附属病院 事務部 医事課）

P1-05 多職種協働による「重症度、医療・看護必要度」評価体制の構築

山田浩美（金沢大学附属病院 医事課）

P1-06 肺血栓塞栓症予防実施率のモニタリング 医療安全の視点からのアプローチ

寺口裕一（信州大学医学部附属病院 医事課）

P1-07 経営改善を主目的とする組織の設置と運用

経営改善組織を中心とした人材育成計画

山田慎太郎（信州大学医学部附属病院 経営推進課）

P1-08 Microsoft® Access を活用した効果的な医療材料価格削減の取り組み

渋谷雅彦（浜松医科大学 病院経営支援課）

P1-09 機器装置の検証

～PDCAを取り入れた機器装置等の有効活用～

黒瀬一清（滋賀医科大学 病院管理課 経営企画室）

P1-10 HOMAS2を利用した後発医薬品切替への取組み

～ベンチマークデータの活用～

駒井和子（京都大学医学部附属病院 経営管理課）

P1-11 データを活用した病院経営への取組事例

～病院運営企画室の活動紹介～

服部敦史（京都大学医学部附属病院 経営管理課）

- P1-12 統計データから見つけだす病院運営の穴
市川貢資（鳥取大学医学部附属病院 経営企画課）
- P1-13 附属病院「熟議-jukugi-」2016
～病院の未来のかたちはここにある～
～第10回 国立大学附属病院若手職員勉強会 概要報告～
谷脇源太（高知大学医学部附属病院）
- P1-14 HOMAS2 患者別原価計算を活用した DPC 分析について
守田はるな（熊本大学医学部附属病院 事務部 経営戦略課）

2 病院情報システム

- P2-01 情報マネジメント部門における問い合わせ対応改善に向けた取り組み
沓澤 海（北海道大学病院 医療情報企画部）
- P2-02 アウトソーシングによる VPN 接続サービスの展開
長瀬祥子（東北大学 医学系研究科）
- P2-03 USB デバイス制限に伴うファイル共有システムの構築・運用について
田山智幸（東北大学病院 医療情報室）
- P2-04 Excel からのコピーでウェブ検索を実現
ウェブ検索ページを簡便に作成するツールの開発
佐藤 大（東北大学病院 メディカル IT センター）
- P2-05 FreeRADIUS による無線 LAN 認証サーバの統合
中村直毅（東北大学病院 メディカル IT センター）
- P2-06 リアルタイム位置情報を用いたファイル保護機能の
オフライン患者 ID 検索ツールへの応用
大佐賀 敦（秋田大学大学院医学系研究科 医療情報学講座）
- P2-07 外来患者呼び出しシステムのログデータを用いた
利用状況の分析と今後の利活用の考察
大場浩明（秋田大学医学部附属病院 医事課 医療情報室）
- P2-08 演題取り下げ
- P2-09 総合病院情報システム調達の新しい形 最適な調達を目指して
鈴木隆弘（千葉大学医学部附属病院 企画情報部）
- P2-10 病院情報管理システムにおけるソフトウェア資産管理の自動化に向けて
石井洋志（金沢大学附属病院 医事課）
- P2-11 目的外アクセス（興味本位閲覧）抑止機能を有する
電子カルテシステムの実現を目指す！
～「電子カルテ目的外閲覧リアルタイム判定システム」プロトタイプの開発～
浜野英明（信州大学医学部附属病院 医療情報部）

- P2-12 病院情報システムネットワーク内でのセキュアなファイル授受システムの構築
船田 徹（信州大学 総合情報センタ／信州大学医学部附属病院
医療情報部）
- P2-13 4階層ネットワークを活用した新たな取り組み
藤原琢也（岐阜大学医学部附属病院 経営企画課）
- P2-14 広域ネットワークを用いた電子的方法による
診療情報提供・閲覧への取り組み事例
小野 悟（浜松医科大学 医事課）
- P2-15 病院主導の電子カルテ導入
中田和輝（藤田保健衛生大学 七栗記念病院 医療情報システム部）
- P2-16 デジタル写真収集管理システムの構築
多賀義晃（大阪大学歯学部附属病院 医療情報室）
- P2-17 外来患者向け Wi-Fi サービスの利用状況分析
大塚千春（鳥取大学医学部附属病院 医療サービス課）
- P2-18 電子カルテに連動した Alert/Reminder 機能
～高カリウム血症・薬剤性腎障害での有用性～
樫部公一（山口大学医学部附属病院 医療情報部）
- P2-19 情報セキュリティ監査について
原田慶一（九州大学病院 メディカル・インフォメーションセン
ター）
- P2-20 教育担当事務職員による電子カルテシステムの効果を最大限に引き出すための
運用・操作研修の取り組み
一橋了介（長崎大学病院 医療情報部）
- P2-21 7：1入院基本料における「重症度、医療・看護必要度」の
低負担で迅速かつ正確な把握に向けた取り組み
牛嶋拓也（長崎大学病院 医療情報部）
- P2-22 放射線画像レポートの見忘れ防止対策と評価
安達将司（大分大学附属病院 医療情報部）
- P2-23 特定機能病院における医師事務作業補助者の持続可能な教育体制の検討
宇都由美子（鹿児島大学病院 医療情報部）

3 診療情報管理

- P3-01 多職種による入院診療録の質的監査 ～実施から1年を終えて～
関 奈保美（千葉大学医学部附属病院 企画情報部）
- P3-02 医療安全と協働した診療情報管理の取り組み
脇村周右也（昭和大学病院 医事課）
- P3-03 診療録記載と DPC データ及び看護必要度データの検証と課題
池田ゑり子（福井大学医学部附属病院 診療情報管理部）

- P3-04 インフォームド・コンセントの現状把握
加藤真嗣 (浜松医科大学 医事課)
- P3-05 診療情報管理士による DPC データ質の向上の取り組み
三室紫乃 (浜松医科大学 医事課)
- P3-06 退院時要約作成率向上の取り組み ～質の高い記載を目指して～
新田浩平 (名古屋大学医学部附属病院 医事課)
- P3-07 インフォームドコンセントの適正実施にむけて
村野博信 (京都大学医学部附属病院 医療サービス課)
- P3-08 適切な DPC コーディングを目的とした傷病名管理と
医師の業務負担軽減について
武本基嗣 (京都大学医学部附属病院 医務課)
- P3-09 岡山大学病院における定義副傷病名率向上への取り組み
森谷翔太 (岡山大学病院 医事課)
- P3-10 がん診療の状況把握を目指して
～院内がん登録 (2012 年 - 2015 年診断症例) を用いた集計～
宮本千帆 (高知大学医学部附属病院 診療情報管理室)
- P3-11 説明同意書改訂の取り組みについて
～説明内容の標準化と不備件数の削減に向けて～
和氣利志朗 (高知大学医学部附属病院 診療情報管理室)
- P3-12 各診療科に対する適切なコーディングに関する委員会を開催する意義
西田怜史 (宮崎大学医学部附属病院 医事課)
- P3-13 患者薬歴情報としての持参薬データ作成
岩穴口 孝 (鹿児島大学病院 医療情報部)

4 看護

- P4-01 テンプレートを使用した看護師による簡易版 NIHSS の有効性の評価
草場 裕 (佐賀大学医学部附属病院 高度救命救急センター)
- P4-02 患者が参画する看護計画立案を目指して
長崎大学病院版患者参画型看護計画書を患者へ提示するまでの課題と
今後の展望
中村ゆかり (長崎大学病院 看護部)
- P4-03 電子カルテの経過表活用推進による看護記録の変化と課題
三谷佳子 (東京医科歯科大学医学部附属病院 看護部)
- P4-04 インシデント記載記録の教育的取り組み
インシデント記載マニュアルの作成と活用
塘田貴代美 (熊本大学医学部附属病院 看護部)
- P4-05 内服処方オーダー、指示、実施の一連化による効果
木村由美 (滋賀医科大学医学部附属病院 看護部)

- P4-06 服薬実施登録機能の使用の現状と今後の課題
西口真由美（長崎大学病院 看護部医療情報部）
- P4-07 看護記録監査システムの現状と課題
橋村宏美（滋賀医科大学医学部附属病院 看護部）
- P4-08 重症度、医療・看護必要度 C 項目の評価漏れ防止対策
片山泰佑（京都大学医学部附属病院 看護部）
- P4-09 重症度、医療・看護必要度の共有と適正評価にむけた取り組み
久保千夏（旭川医科大学病院 経営企画部）
- P4-10 患者支援センターでの退院調整看護師の育成
～退院調整業務確認シートを活用して～
井口和子（徳島大学病院 患者支援センター）
- P4-11 DiNQL データを用いた転倒・転落に関する分析 3
西山涼子（和歌山県立医科大学附属病院 看護部）
- P4-12 看護管理に活かすデータの見える化に関する取り組み
遠藤美代子（東京大学医学部附属病院 看護部）
- P4-13 多職種連携で取り組む人材育成（第 3 報）多職種の体験研修を通じて
鈴木樹美（東京大学医学部附属病院 看護部）
- P4-14 特定機能病院における高齢者サポートチーム立ち上げの経過と課題
～組織的多職種協働による認知症ケア体制の構築～
高森巳早都（福井大学医学部附属病院 看護部）
- P4-15 職場相互理解の促進に向けて ファミリーデー開催の取り組み
鈴木樹美（東京大学医学部附属病院 看護部）
- P4-16 育児休業復帰支援の実際 ～支援効果と今後の課題～
森本聖子（徳島大学病院 看護部）
- P4-17 環境クロス変更に関する一考察 -物流システムを活用して-
伊藤友美（岐阜大学医学部附属病院 看護部）
- P4-18 物流データを活用した患者個別請求の医療材料の効率化を目指した取り組み
齋藤 凡（東京大学医学部附属病院 看護部）

5 歯科

- P5-01 歯科大学病院の医療連携についての歯科診療所を対象としたアンケート調査結果
安藤文人（日本歯科大学附属病院 小児・矯正歯科）

6 薬剤

- P6-01 PDA を利用した注射調剤過誤チェックシステムの効果と業務に及ぼす影響
濱崎久司（長崎大学病院 薬剤部）
- P6-02 薬剤業務における「TO DO CARD」伝えるから伝わる情報
久本佳奈（山口大学医学部附属病院 薬剤部）

- P6-03 医薬品情報の電子的階層化
幸田恭治（山口大学医学部附属病院 薬剤部）

7 放射線・医用画像

- P7-01 レポート通報システム導入前後における胸部 X 線肺結節の follow-up の状況調査
三宅秀敏（大分大学医学部附属病院 医療情報部）
- P7-02 国立大学病院における放射線部門システムの現状 国立大学病院放射線診療部門会議「医療の質向上委員会」アンケート結果報告
相田雅道（広島大学病院 診療支援部）

8 検査

- P8-01 安定な迅速報告を目指した検体検査システム開発
櫻井孝介（神戸大学医学部附属病院 検査部）
- P8-02 病院情報システムにおける検査情報の利用状況
川下隆二（岡山大学病院 医療技術部）
- P8-03 バーチャルスライドを利用した遠隔病理診断の滋賀医科大学医学部附属病院での取り組み
林 裕司（滋賀医科大学医学部附属病院 検査部）

9 地域連携

- P9-01 国境を越えた医療カンファレンス環境構築の報告
辻岡和孝（富山大学附属病院 医療情報部）
- P9-02 演題取り下げ
- P9-03 ICT による地域連携パスの取り組み
みやぎ医療福祉情報ネットワーク（MMWIN）の利活用
井戸敬介（東北大学病院 メディカル IT センター）

10 臨床研究・治験

- P10-01 リモート SDV 実現へ向けたクラウド型治験薬温度管理システム導入の検討
藏本 悠（長崎大学 薬剤部）
- P10-02 被験者の安全確保に主眼を置いた臨床研究サポートシステムの構築
前川由美（滋賀医科大学医学部附属病院 倫理審査室）
- P10-03 エリア別ネットワーク環境を利用した電子カルテシステムと REDCap システムの連携
佐藤菊枝（岐阜大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究推進センター）

P10-04 臨床研究・治験の最近の動向に対する ICT 活用状況について
アンケートを実施した結果

上田照子（滋賀医科大学医学部附属病院 臨床研究開発センター）

P10-05 電子カルテにおける盲検維持システムの構築

坂 晶子（滋賀医科大学医学部附属病院 臨床研究開発センター）